

平成 30 年度 京都大学生態学研究センター研究集会
「スウェーデン Vega 号採集による日本産標本にもとづく 140 年前の生物多様性復元
—琵琶湖、神戸、関東、長崎の水生生物・陸貝を中心に—」

開催日：平成 30 年 8 月 25 日（土）13：15～18：00（事前申込不要、参加費無料）

会場：大津市ふれあいプラザ 大会議室（明日都浜大津 5 階 京阪電車びわこ浜大津駅から徒歩 2 分）

研究集会代表者：西野麻知子（びわこ成蹊スポーツ大学）

開催趣旨：探検家ノルデンショルド率いるスウェーデンの Vega 号は 1879（明治 12）年 9～10 月に日本を訪問し、各地で生物標本を収集した。これらの標本は、近代化が始まった頃の日本の自然を記録した貴重な資料である。本研究集会では、スウェーデン国立自然史博物館（ストックホルム）での魚類および水生・陸生無脊椎動物標本の分析から、約 140 年前の日本の水辺の生物多様性復元を試みる。

プログラム

第 1 部 Vega 号収集標本 調査報告（13：15～16：15）

滝川 祐子（香川大・農） Vega 号標本の収集経緯の概要

中野 隆文（京都大・理） Vega Collection が示唆する *Barbronia weberi*（ヒル下綱：イシビル形亜目）が移入種である可能性

石綿 進一（神奈川工科大）他 Vega 号標本から見た琵琶湖に生息するカゲロウ目の長期変動

中井 克樹（琵琶湖博物館） Vega 号が収集した日本産陸生貝類標本

西野麻知子（びわこ成蹊スポーツ大）琵琶湖の無脊椎動物相の変遷からみた Vega 号標本の位置づけ

合田 幸子（京大生態研セ） 京都大学の琵琶湖研究 100 年：大津臨湖実験所・生態学研究センターが長年収集している琵琶湖産標本と定期観測

<休憩>

細谷 和海（近畿大）他 魚類標本が果たすあらたな展開：保全分類学

藤田 朝彦（林建設環境研）他 Vega 号採集の日本産淡水魚

川瀬 成吾（大阪経済法科大）他 琵琶湖産淡水魚の新種記載をめぐる歴史と課題：Temminck and Schlegel (1846) から Kawase and Hosoya (2010) まで

瀬能 宏（神奈川県博） Vega 号が収集した海産魚類標本が示唆する明治初期の沿岸環境

中野 伸一（京大生態研セ） コメント

第 2 部 地域ごとの総合討論（16：30～18：00）

① 関西（琵琶湖、神戸） ② 関東（東京湾、群馬、富士山麓） ③ 長崎

吉野 哲夫（沖縄美ら島財団） コメント

以上